

1. 略歴

- 1984年3月 東京大学教養学部教養学科第2・ドイツの文化と社会卒業
1986年3月 東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻修士課程修了
1986/88年 ロータリー財団奨学生としてドイツ連邦共和国ミュンヘン大学留学
1991年4月 共立女子大学国際文化学部専任講師
1992/93年 ドイツ学術交流会 (DAAD) 奨学金によりドイツ連邦共和国マンハイム大学留学
1996年4月 共立女子大学国際文化学部助教授
2001/02年 アレクサンダー・フォン・フンボルト財団研究奨学金によりドイツ連邦共和国ベルリン自由大学研究滞在
2002年4月 慶應義塾大学文学部助教授
2005年4月 慶應義塾大学文学部教授
2007年4月 慶應義塾大学大学院文学研究科委員兼任
2011年4月 東京大学文学部・大学院人文社会系研究科教授 (現職)

2. 主な研究活動

a 専門分野

ドイツ近現代文学

b 研究課題

ヴァルター・ベンヤミン研究、ハインリッヒ・フォン・クライスト研究

c 概要と自己評価

ベンヤミン研究は、同時代の作家フーゴー・フォン・ホーフマンスタールやエルンスト・ユンガーらの、いわゆる保守革命運動との関係を考察する作業を進めている。また、日本独文学会学会誌『ドイツ文学』欧文版“Neue Beiträge zur Germanistik” 155号「ベンヤミン特集」の責任編集をつとめ、テーマ設定および導入を執筆した。科研費による研究プロジェクトに関しては、「情動と技術の人間学的考察」(2013~2015年度)に引き続き、「[抗争] 言説の再検討 (ドイツ文学の場合)」(2016~18年度)を進め、多くの内外の研究者との議論を行い、実りあるものとなっている。クライスト研究としては、「<政治的なるもの>の詩人」としての側面から日本独文学会 2017年春季研究発表会においてシンポジウムを企画し、司会・パネリストを務めた。政治における「双務的秩序」の喪失という歴史の変容のなかでドイツ文学を読み直す試みの中心にクライスト作品を位置づける作業を続けている。2016年8月に韓国中央大学校において開催された「アジアゲルマニスト会議」に、日本独文学会会長として参加し、基調講演を行なった。また、ドイツの大学より招待講演の依頼を二度受けた(2016年4~5月)ほか、学会発表を二度行なっている(2016年10~11月)。

d 主要業績

(1) 論文

大宮勘一郎、「『充たされざる者』あるいは終わらなき慰撫」、『ユリイカ』、カズオ・イシグロ特集、2017.12
OMIYA, Kanichiro, 「Einleitung zum Sonderthema: "Halt, Schritt, Trab, Galopp - Walter Benjamin Weiter, Tiefer Lesen"」、
『Neue Beiträge zur Germanistik』、155、7-13頁、2018.3

(2) 学会発表

- 国際、OMIYA, Kanichiro, 「Die Aufgabe der Übersetzung im Zeitalter der Globalisierung」、Asiatische Germanistentagung、Seoul, Korea、2016.8.22
国際、OMIYA, Kanichiro, 「Statement zur Podiumsdiskussion "Geisteswissenschaften und gesellschaftliche Bedürfnisse"」、Die Geisteswissenschaften vor den gesellschaftlichen Bedürfnissen Laufende Diskussionen in Deutschland und Japan、Berlin-Brandenburgische Akademie der Wissenschaft, Berlin、2016.11.1
国際、OMIYA, Kanichiro, 「Von Kokugaku zur Japanischen Romantik」、Deutsch-Japanische Komparatistik im weltkulturellen Kontext, Freie Universität Berlin、2016.11.2
国内、大宮勘一郎、「ペンテジレアー — 「政治的なるもの」と「愛」、日本独文学会春季研究発表会、日本大学文学部、2017.5.28
国際、OMIYA, Kanichiro, 「Auf der Brücke wohnen - Über Heideggers Bauen und Wohnen nachdenken」、West-östliche Raumfigurationen - Wohnen und Unterwegssein、学習院大学、2017.9.8

国内、大宮勘一郎、「『ヨーロッパの文学』とドイツ」、ヨーロッパの文学、東京大学、2017.12.9

(3) 啓蒙

大宮勘一郎、「道草のドイツ – Don DeLillo の”Zero K”など」日本独文学会ウェブサイト・コラム、2016.7.16
(<http://www.jgg.jp/modules/kolumne/details.php?bid=136>)

大宮勘一郎、「『ヴェルター』とゲーテ」、ジュール・マスネ『ウェルテル』プログラム、23-26 頁、2016.11

大宮勘一郎、「アンティゴネの時」、『SPAC 劇場文化』、2017.4

(4) マスコミ

「オースターの身体と内面」、『週間読書人』、2017.5.19

(5) 翻訳

個人訳、Robert Walser、"Der Anspruchsvolle"、大宮勘一郎、『求めの高い男』、『MONKEY』、Vol. 9、91 頁、スイッチ・パブリッシング、2016.6

(6) 研究テーマ

文部科学省科学研究費補助金、大宮勘一郎、OMIYA, Kanichiro、研究代表者、「[抗争] 言説の再検討（ドイツ文学の場合）(Reconsidering the Discourse of Antagonism)」、2016～2018

3. 主な社会活動

(1) 学会

学会（国内）、日本独文学会理事、2013～2017

学会（国内）、日本独文学会会長、2015～2017

学会（国内）、日本独文学会主催「2019 年アジアゲルマニスト会議」実行委員、2017～

(2) 他機関での講義等

招待講演、Femuniversität in Hagen、「Die Ethik des Nahkampfs in der deutschen Literatur um 1800」、2016.4

招待講演、Universität Mannheim、「Teilen oder Tauschen」、2016.5

訪問教授、Freie Universität Berlin、2017.8